

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-137858

(P2008-137858A)

(43) 公開日 平成20年6月19日(2008.6.19)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
C03C 17/30 (2006.01)	C03C 17/30	B 4G059
C03C 17/42 (2006.01)	C03C 17/42	
B60J 1/00 (2006.01)	B60J 1/00	G

審査請求 未請求 請求項の数 26 O L (全 23 頁)

(21) 出願番号	特願2006-326512 (P2006-326512)	(71) 出願人	503002662 小川 一文 徳島県阿波市土成町土成字寒方50番地3
(22) 出願日	平成18年12月4日(2006.12.4)	(72) 発明者	小川 一文 徳島県阿波市土成字寒方50-3
		Fターム(参考)	4G059 AA01 AC22 FA05 FA22 FB05 GA01 GA04 GA16

(54) 【発明の名称】 撥水撥油防汚性ガラス板とその製造方法及びそれを用いた自動車

(57) 【要約】

【課題】従来の化学吸着膜は吸着剤と基材表面との化学結合のみを用いているため、耐摩耗性に乏しいという課題があった。また、クロロシラン系界面活性剤を用いた方法では、製膜時に塩酸が発生するため、製造は、特別な脱塩酸設備を備えた隔離された場所で行わなければならないという課題があった。

【課題を解決するための手段】

表面に高耐久性の撥水撥油防汚性被膜が形成されたガラス板であって、前記被膜が、有機含フッ素エーテル基または有機含フッ素ポリエーテル基を主成分とする長鎖物質とフッ化炭素基と炭化水素基とシリル基を主成分とする短鎖物質とシロキササン基を主成分とする物質を含む複合膜であることを特徴とする撥水撥油防汚性ガラス板を提供する。このとき、アルコキシシランを用いているため、塩酸は全く発生しない。

【選択図】 図1

